大阪大学
THE UNIVERSITY OF OSAKA

Press Release

取り組み

2026年4月24日

避難所情報や被害・リスク情報を人とAIの力で迅速かつ正確に共有！

未来共生災害救援マップとSpectee Proとの災害対応連携

―人間科学研究科・SSI・RICCC・株式会社Spectee と協定を締結―

【協定締結式：4/30（木）16時～@吹田キャンパス】

❖ 概要

大阪大学大学院人間科学研究科は、未来共生災害救援マップ(略称:災救マップ)と Spectee Pro との災害対応連携を推進し、災害時の避難所情報や被害・危険情報を迅速かつ正確に共有する体制を強化することを目的として、「未来共生災害救援マップと Spectee Pro の災害対応連携に関する協定」を、大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)、一般社団法人地域情報共創センター(RICCC)および株式会社 Spectee と締結します。

この4者連携による取り組みは、大阪大学の知的財産である災救マップに、株式会社 Spectee の AI を活用したSNS災害情報解析技術を組み合わせることで、避難所情報に加えて土砂崩れや河川氾濫等の被害・危険情報も活用できる、より実効性の高い災害対応支援の実現を目指すものです。協定の締結に当たり、4月30日(木)、大学院人間科学研究科 北館2階ラーニングコモンズにおいて、協定締結式を開催します。

当日は、取材いただけるメディアの方に、関係者による協定締結式の様子および両システムのデモンストレーションを撮影いただけるスペースも設けています。

つきましては、本イベントの積極的なご周知と当日のご取材・出席をお願い致します。

❖ 「未来共生災害救援マップと Spectee Pro の災害対応連携に関する協定」協定締結式

【日　時】　4月30日（木）　16：00 ～ 16：30

【場　所】　大阪大学大学院人間科学研究科 北館2階ラーニングコモンズ（吹田キャンパス）
https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/access.html

【内　容】　次頁のとおり

❖ 災救マップとは

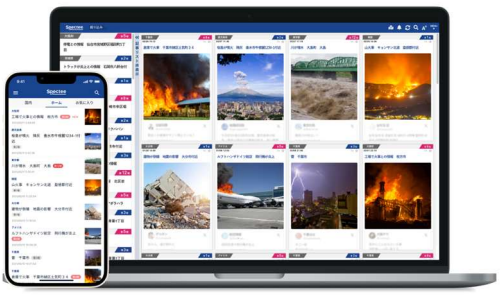
「災救マップ」は「未来共生災害救援マップ」の略称。大阪大学の知的財産で、一般社団法人地域情報共創センター（RICCC）が社会実装しています。避難所、緊急避難場所、宗教施設を合わせ約 28 万の施設データを集約、インターネット上で避難所開設情報、避難情報、危険個所、ハザードマップ、避難指示等を閲覧できます。



災救マップ
https://map.respect-relief.net/

❖ Spectee Pro とは

「Spectee Pro」は世界中の SNS や気象情報、自動車のプローブデータ、全国 1 万台以上の道路・河川カメラなどを解析し、世界で発生する災害や危機を、迅速に収集、可視化、予測できる AI リアルタイム防災・危機管理サービスです。正確かつ整理された情報を瞬時に入手することができ、災害対応や BCP を目的に地方自治体や民間企業で利用されています。



Spectee Pro
https://spectee.co.jp/service/spectee/

❖ 「なぜ、行うのか？」本協定の意義

災救マップは、約 28 万件の施設データや 30 万件以上の過去の避難所開設情報を管理するなど、自治体の災害対応を支援してきました。しかし一方で、近年頻発する土砂崩れや河川の氾濫などに関して、SNS で発信されるリアルタイムな災害情報の活用には未着手であるという課題を残していました。

災害時に SNS 上の投稿は、速報性や圧倒的な情報量の観点から、自治体においても被害状況の把握に有効な手段であるものの、真偽不明な情報（フェイク・デマ）が錯綜するため、正確な情報を取得することが不可欠です。そこで今回、SNS の投稿情報から AI を用いてフェイク・デマを排除し、正確な位置情報を付与した上で提供する Spectee Pro との連携に至りました。

現在、国においても AI の活用は重点方針として掲げられています。本協定により、自治体職員、防災士等による現場の確かな情報と、AI 技術を用いて SNS から解析・抽出した正確な情報を組み合わせて提供することが可能になります。これにより、自治体の災害対応のさらなる高度化と、迅速な状況把握が可能になります。

今後、平常時からシステム連携を進めることで、災救マップ×Spectee Pro は、次のステージへと進化し、高度な防災情報共有モデルの社会実装や実証実験、そして実践的な防災・危機管理研究の推進をさらに加速させることが期待されています。